

# ほうこん

題字・清水英夫

GALAC・9月号・付録  
2014年9月6日発行(毎月1回6日発行)  
昭和43年3月8日第三種郵便物許可

〒160-0022  
東京都新宿区新宿5-10-14 中村ビル2F  
NPO法人放送批評懇談会

TEL(03)5379-5521/FAX(03)5379-5510  
ホームページ <http://www.houkon.jp/>  
Eメール [kondankai@houkon.jp](mailto:kondankai@houkon.jp)  
編集・藤田真文

## 新体制スタート 今後の課題検討

### ―7月理事会報告―

2014年7月30日、7月理事会が開催された。

#### 1. 委員会活動報告

##### ◇出版事業委員会 飯田編集長

・3日と23日に編集委員会を開催して10月号と11月号の特集を決めた。10月号は「急増するタイム／プレイス」型「視聴」。11月号は「クラウドファンディングは救世主？」を特集する予定。

・書評用で取り上げる本が少ないので、是非推薦してほしい。

・編集委員の柳川素子さんが西川博泰さんに変更となった。

##### ◇選奨事業委員会 藤久委員長

〈テレビ委員会〉 古川副委員長

・7月26日に7月度の月評会を開催して「アーホ」(フジテレビ)「土曜ドラマ 55歳からのハローライフ」(NHK)「MOZU sea

zon1、2」(TBS、WOWOW)「日本人は何をめざしてきたのか 知の巨人たち」(NHK)の4本を選んだ。

##### 〈ラジオ委員会〉 橋本委員長

・7月22日に定例会を開催した。NHK・FMの「トーキングウイズ松尾堂」を聴取した。次回から取り上げる番組を2つにする。

・「入賞作品を聴いて、語り合う会」は9月28日に東京エフエムで開催する。大賞作品ともう一作品聴取する予定だが、詳細は未定。

##### 〈CM委員会〉 稗田委員長

・6月24日と7月24日に定例会を開催した。6月は五井委員長体制での最後だったが、日清カップヌードルのCMが話題になった。7月はまず、CM部門の課題を話し合った。他CM賞との差別化、優

位性確立に今のギャラクシー賞審査基準でいいのか。ギャラクシー賞の認知向上に取り組むために、各団体(JAA、JAAA、JAC、ACC)、広告関連団体(宣伝会議、電通報)への訪問とプレスリリースを予定。「入賞作品を見る会」については対象、集客、場所、費用などの課題が多いので、その解決が先になる。

##### 〈報道活動委員会〉 鈴木委員長

・「ギャラクシー受賞作を見て、制作者と語る会」は11月30日に放送博物館で開催する。詳細は未定。

◇第51回ギャラクシー賞贈賞式懇親会決算報告 中島事務局長

・予算通りで執行した。来場者が多く、昨年とほぼ同額となった。

##### ◇企画事業委員会 川喜田委員長

・22日に新委員会の初会合を開き、今年度の事業方針、次回シンポジウムの内容、開催時期などについて討議した。

◇マイベストTV賞プロジェクト 滝野プロジェクトリーダー

・新しく委員に西川博泰さんに加わってもらった。若い人の意見を取り入れたい。

## 2. その他

①ギヤラクシー賞 バードマン覚書  
について 藤田専務理事

デザイナーの松永真さんと交わす「バードマンの権利・利用に関する確認書」案を提示。これについて討議。松永氏側がバードマンをギヤラクシー賞以外に使用した場合のように対処するのか等意見が出されたので、内藤篤弁護士に確認する。覚書は8月中には完成させたい。

②ギヤラクシー賞 トロフィー・賞状レプリカの件 藤田専務理事

・トロフィーのレプリカについては本物より小さいサイズのもの、またはマテリアルを変えたほうがいいのではとの意見が多かった。

・賞状は制作に関わった局・制作会社など企業・団体に対してのみ制作する。実費プラス送料が妥当の意見が多かった。

③ギヤラクシー賞 エントリー電子化計画について 中島事務局長

・現在は参加申込書を郵送で提出してもらっているが、ホームページからエントリーできるようにしたい。まず、CM部門から始めて、第52回下期からは全部門で導入したい。

・海外などではPDFに直接入力する形が多いので、調査してみたいとの意見があった。

・選評の入力フォーマットを作ってほしいとの要望があり、こちらも検討をすすめる。

④入会の件

正会員・奥律哉さん

⑤会費滞納者の件

2人の長期会費滞納者の内、1人からは入金があった。もうひとり連絡がないままだが、理事の中に知り合いがいるので、もう一度連絡を試みる。

⑥名簿、名刺の件 中島事務局長

・役員改選にあたり、紙ベースの名簿は作成の必要があるかを検討。名簿はあったほうがいいとの意見が多数。今年度は変更点だけを印刷する。

・正会員名刺印刷ルールにより、理事は1期2年200枚まで会費担当で印刷できるので、必要な理事は事務局に連絡してほしい。

⑦日韓中テレビ制作者フォーラムの件

9月15日～18日に横浜で開催される第14回日韓中テレビ制作者フォーラムへの協力を了承。

⑧「ザ・ベストテレビ2014」の件

NHK「ザ・ベストテレビ2014」への協力を了承。

次回以降の理事会

8月 休会

9月30日(火)

10月28日(火)

【出席】音好宏、橋本隆、藤田真文、川喜田尚、飯田みか、藤久ミネ、稗田政憲、鈴木嘉一、滝野俊一、入江たのし、茅原良平、坂本衛、桜井聖子、嶋田親一、古川柳子、山田健太、中島好登

### 会議記録

〔7月〕……………

3日 出版編集委員会

9日 (選奨) 報道活動委員会

22日 (選奨) ラジオ定例部会

23日 企画事業委員会

24日 (選奨) 出版編集委員会

26日 (選奨) CM定例部会

30日 (選奨) テレビ月評会

理事会

## サムシング・ニューをもう一度

出田幸彦

放送の仕事をはじめたのは44年前。東京育ちの私が最初に赴任したのはNHK広島放送局でした。当時のスタジオにはターレット式の大型モノクロカメラ、ロケはフィルムと呼べた16ミリフィルムカメラでした。いずれも今では放送博物館でしかお目にかからない機材ですから、私自身はまさに前世紀の放送人かもしれません。でも、かつて上司から「サムシング・ニュー」を目指せと発破をかけられていた私たちの世代から見ると、最近の番組はどこか元気がないのではないか、新しいことに挑戦していいのではないかと感じるが多々あります。

今回音理事長からお声をかけていただいたのをきっかけに、多少でも恩返しができるばと思いい入会することといたしました。あわせてテレビ部門の選奨委員会のお手伝いも仰せつかりました。すでに放送現場を離れて10年近くなりますが、緩みかけたネジをもう一度巻き直して頑張ってみたいと思います。

## 新入正会員自己紹介

### ラジオ好きが高じて脱サラ

鶴飼一嘉

1954年東京新宿に生まれました。現在はラジオを中心に喋りのお仕事をさせていただいております。私が中学、高校時代は第1次深夜放送の黄金期で、毎日ラジオ中心の生活を過ごしております。

大学卒業後は一般企業で18年間管理部門の仕事をしておりましたが、40歳を過ぎた時どうしても中学生時代からの夢であったラジオパーソリテイの仕事がしたく、無謀にも脱サラ。周りの知人も、自分自身も喋りの世界で生きていくのは難しいと思っておりますが、色々な方々のお陰で運よく数々のラジオ番組を担当させていただくことができました。現在もラジオ番組で喋りをさせていただいております。又最近では、昔から好きだったjazzのコンサート企画、プロデュースもしております。

今回理事の方から御誘いを受け入会をさせていただきました。少しでも何かお役にたてればと思っております。よろしくお願いいたします。

## 新入正会員自己紹介

### テレビは可能性に満ちている

氏家夏彦

『あやぶろ』という多彩な方々にメディア論を書き継いでもらうブログを主催、編集長をしています。インターネットによって、メディアもコミュニケーションも大変動を起こしているこの時代に、テレビの未来はどうなるのか考え書いてきました。

書き始めた3年前は実はテレビの未来に希望は見えませんでした。しかしスマホなどデバイスと通信の急激な進化によって、今ではテレビの未来は明るくとてつもない可能性に満ちていると思えるようになりました。

テレビ局に入社し35年、報道、バラエティー、情報番組、経営管理、放送外事業を経て今は関連企業2社の社長です。テレビについては一通りわかつているつもりですが、ブログを通じ外の人の考え方や情報を知ることができるようになり、中の人の感覚がいかにズレているかを痛感しました。

テレビの未来の可能性は、過去の延長線上にはないことがわかりました。今こそテレビ・イノベーションが必要だと思っています。

## 演劇博物館のテレビ脚本

岡室美奈子

早稲田大学演劇博物館の館長をしています。演博はその名のとおり演劇専門博物館ですが、実はテレビドラマの脚本もたくさん収蔵しています。ときどき書庫にはいつて手に取ると、そのドラマだけではなくて、それを一緒に見ていた家族の風景や当時同じテレビから流れていた風俗やニュースの記憶が甦ります。テレビはそんなふうに常に私たちの日常生活と密接に関わっていて、これからも一緒に生きていくメディアだと思っています。

私は物心つく前からテレビが大好きで、幼稚園にも行かずにテレビばかり見ている子供でした。大人になつてからは『ゴドーを待ちながら』で知られるサミュエル・ベケットのテレビ作品の研究をしました。今では大学で日本のテレビドラマを研究する授業を担当しています。現場に携わる方々や批評の大先輩の方々から刺激を受けながら、よいテレビ番組とは何かを考えて行きたいと思っています。

## 新入正会員自己紹介

### アナウンサーという生き方

末田倫子

森下洋子さんが「バレリーナという生き方」とおっしゃっています。アナウンサーというのも生き方の一つではないでしょうか。「全てが話のネタになる」―日々の暮らしの中で出合う様々なこと、いいことも悪いことも、「人に話すとしたら…」と考えるのは私だけではないでしょう。1985年にRSKに入社し、結婚で退職、上京、TVのレポーターなどした後、夫の仕事の都合で5年半の海外生活。帰国後、フリーランスでラジオのパーソナリティとして復帰し、以来18年業界の片隅で小さな番組を作り続けています。「毎日をちょっと楽しく」するのに役立つ話題―主婦業、子育て、ボランティア、趣味の映画と舞台と本、そしてもう一つの仕事の日本語教師…。平凡な私の生活の中から拾う話の種。

この度、放懇に加えていただき、日頃聞けない番組を聞き、ラジオを愛する方々と語り合うことができます。ことにワクワクしています。どうぞ、よろしく願います。

## 新入正会員自己紹介

### 「縁」を「恩」に

永須智之

ふだんは雑誌の編集という、放送業界とは畑違いの仕事をしています。が、このたび放送批評懇談会・ラジオ部門に参加させていただくことになりました。よろしく願います。

畑違いながら、私はラジオには「縁」を感じています。私は旅行が趣味で、休みのたびあちこち出かけるのですが、この性格ができ上がったのは、ラジオがきっかけでした。高校1年の時、あるラジオ番組のプレゼント企画で、生まれて初めての海外旅行に行くことができました。

以来、旅行大好き人間になりました。もちろん、旅先にはラジオを持っていきます。国内なら、ドライブ中に地元の番組を聞くのが何よりの楽しみです。また海外のラジオは、言葉がわからなくとも、聞いているだけで情緒を感じさせてくれます。

今回、会に参加させていただいたのも、そんなラジオと私の「縁」のひとつだと思っています。活動を通じて、ラジオとの縁を「恩」にしてお返しできれば幸いです。

## CMのアナデジ時代を過ごして

服部千恵子

私は広告代理店東急エージェンシーでクリエイティブとして33年勤め、現在はフリーランスのクリエイティブディレクター、プランナーとして活動しております。広告が伸び盛りの良い時代を過ごし、アナログからデジタルへの転換期を制作現場で経験できたことは、大きな価値のあることだったと思います。

また、「女性の時代」というかけ声を追い風に、クリエイターオブザイヤー特別賞を「女性で初めて」いただいたり、女性視点の商品開発や広告制作に従事することもできました。しかし一方で、かけ声だけの「女性登用」は、女性達にとって本当に役に立つのかという疑問も感じます。

最近制作側だけでなく、一視聴者としての視点から広告に接する機会が増えました。一方通行で送り出していた広告が、本来の役割や機能を果たしていたのか？ウェブなどの媒体変化がもたらすコミュニケーションの変化は？など、より幅広い見方で広告を再検証したいと思っています。

## 新入正会員自己紹介

### ラジオとの再会

松本しのぶ

父と同じジャーナリストを目指して1988年にニッポン放送に入社しました。同局初の女性報道記者として、取材現場に出かけ、情報番組のリポートをさせてもらいました。

13年近くに及ぶLF生活の殆どを事業開発局で過ごしました。放送外（事業）収入が経営に重要な役割を担うよい時代でした。景気に陰りが見え始めるとタイムデスクを拝命、営業面から放送の仕組みを学ばせてもらいました。

ニッポン放送「卒業」後は、国連や外資系企業で広報、CSR、事業開発の分野に携わり、現在はフリーランスで国際業務、広報、翻訳、通訳など、コミュニケーションのお手伝いをさせていただいています。

近年、LF時代の同僚と旧交を温める機会が増えてきて、この会の存在もそんな折のひとつに先輩に教えていただきました。再び放送と向き合い、自分の原点を見直すチャンスをおいただいたように感じます。どうぞよろしく願います。

## 新入正会員自己紹介

### 文句を意見に 変えられるかな、私

横川紀子

気だけは若いシワが増えた。それ以上に文句が増えた。文句の矛先は、ゴミ出しから政治問題、多岐にわたるが、現役・制作オールドとしてはやはり、昨今の広告。

このCM、何が言いたいんだ。タレント使えば売れる？甘いッ。コメントがうざいよ。喋りすぎだわ。TVの前の鬼の形相は間髪入れずに新聞へ。せっかくの15段がああ、もつたいない。コピーがゆるい。レイアウト、なつてない。デザイナーは何処へ。この言いたい放題、罵詈雑言はオールドの活券か、現役バリバリへの嫉妬か。

そんな矢先に、ギャラクシー賞の委員？広告を批評する？文句の増産は得意だけれど、文句と意見は違う、文句と批評も当然違う。文句を意見に、批評に、変えて、きちんと発言しなければ意味がない。そんなこと、私に出来るのか？仲間入りさせていだいたものの、文句より今や不安の山。何卒、よろしくお導きの程、お願い申します。

## お世話になって半世紀

吉江一男

1978年にCM音楽制作会社ミスターミュージックを設立してから現在まで、ひたすらCM音楽制作に励んで来ました。設立前は、「網走番外地」や「明日のジョー」などでも有名な、ジャズピアニスト作曲家の八木正生さんに高校生時代から師事していたので、業界には50年お世話になっていきます。1970年に松山善三さんが出演したネスカフエ・ゴールドブレンドのダバダが、プロデューサーとして最初の作品です。この曲は時代の変化に堪え、いくつもの苦難を乗り越えて、今でもCMに欠かせない曲となりました。また会社設立の78年に私が作曲をした「ピッカピカの一年生」もロングランCMとなり、入学シーズンになると放送が始まります。僅か3秒の音楽が入学当時は思い起こし、心の財産として残っていきます。

音楽制作者の立場でどこまでCMを語れるか分かりませんが、足手まといにならぬよう頑張りますので、宜しくお願いします。

## 新入正会員自己紹介

### タレント合戦花盛り

若尾一彦

小生が電通でCMプランナーとして企画・制作している頃は、フィルムの大盛時代。今と違って製作技術の制限が沢山ありました。その中で、企画・アイデアを練ることがむしろ楽しみであったような気がします。

一昨年、JAC（日本アド・コンテンツ制作社連盟）が編纂した日本のCM500選（DVD）は1960年～2010年を10年毎に各100本選出したものですが、70・80年代のCMに大いなる活気があったかなと思います。東京海上「ピリヤード」、松下電器「光のメニュー」等々、驚きの映像作品が沢山ありました。

昨今はデジタル技術の進歩によりどんな映像も当たり前のように思えて、映像だけで人を振り向かせることが難しくなっているのかもしれない。だからですかね、最近のCMは「タレント合戦花盛り」の様に見えますが、小生だけでしょうか？勿論、キャストینگがきちんと考えられていれば、タレントはCMにとって重要な武器なのですから。

## お知らせ

放送批評懇談会ホームページには「正会員」の情報が掲載されています。掲載中の情報の変更をご希望の場合は、事務局までメール、FAX、電話でご連絡ください。

メール kondankai@houkon.jp

FAX 03-5379-5510

TEL 03-5379-5521

よろしくお願いいたします。